

利用者から見た育児支援としての母子保健サービスについて

保護者への意見調査より

母子保健研究部 齋藤幸子・高野 陽

要約

乳幼児の保護者を対象にアンケート調査を行い、記述回答によって地域保健および保育所の保健活動に関する意見や要望を得た。調査対象は、4地域の保育所と2地域の育児グループの保護者であった。回答は保育所において120人、育児グループにおいて40人から得られ、内容ごとに整理すると、それぞれ177件と51件となった。これらを項目ごとに分類して分析した。

第一の問題は、どのようなサービスがあるのかが分かりにくい、そして使いにくいという点であった。従って、情報提供の方法を検討し、サービスのあり方は個々の利用者が利用しやすいように改善されなければならない。第二点は、サービスの質について、利用者の期待するレベルに達していないことである。それは、医療従事者としてだけでなく、育児支援者としてのスタッフの技量についての問いかけでもある。

以上から、保健サービスの現状と利用者側の期待との間のギャップが大きいことが分かった。育児支援としての保健サービスは、その内容・実施方法およびスタッフの資質向上を検討すべき時期に直面している。

見出し語：育児支援、母子保健サービス、保育園児、育児グループ、情報提供

A Survey on Parents' Cognition of Maternal and Child Health Services

Sachiko SAITO, Akira TAKANO

Abstract:

The purpose of this study is to examine the parents' needs for the community health service. 120 parents in day care centers and 40 mothers in mothers' community circles answered an essay question. The results are as follows.

The first point is that it is not easy for parents to get information about the services, and some services are not useful especially for working mothers, because they are provided mostly on weekdays.

The second point is that parents feel the quality of medical checkups for children and the child health guidance by the health service center's staff is not satisfactory.

It is clear that there is a rather wide discrepancy between the care offered by health service staff and parents actual needs.

Keywords: maternal and child health services, day care center, information,

I 研究の目的

今日の地域保健活動は、保健活動を通した子育て支援としてその重要性を増しており、保育所を拠点とした地域の育児支援との連携も不可欠である。本年度の当研究所チーム研究「保育所と地域保健活動の連携に関する研究」においては、乳幼児の保護者を対象に地域母子保健活動と保育所の保健活動についてアンケート調査を行った。その結果は、別稿のとおりであるが¹⁾、保育所の保護者と育児グループの保護者の間では、地域保健活動に関する認識の違いがあることに注目したい。本稿では、この結果の背景をより詳細に調べることによって、育児支援の一翼を担う、よりきめ細かな保健サービスの実施に向けた資料を得ることとする。

II 方法

乳幼児の保護者を対象に行ったアンケート調査から¹⁾、記述回答によって得られた地域保健活動および保育所保健活動に関する意見や要望の内容を分析する。

調査対象は、4地域の保育所と2地域の育児グループの保護者であった。調査場所は、東京都、兵庫県、大阪府、島根県で、調査時期は2004年11月～2005年1月であった。

III 結果

記述回答は保育所における回答者696人中120人(26.1%：以下、保育所群と称す)、育児グループにおける回答者153人中40人(17.3%：以下、育児グループ群と称す)から得られた。回答を内容別に整理し、保育所群は177件、育児グループ群は51件の意見を抽出した。これらを、大分類9項目と小分類56項目に整理した結果が表1である。地域別、保育所群・育児グループ群別に件数で表したが、記述回答は全回答者の意見ではなく、自由意志で書かれた内容であるため、数量的な分析は適さないと考えられる。よって、以下では主に質的な分析を進めたい。鉤括弧内は回答者の記述にそった内容である。

1. 医療に関する記述

医療に関する記述は14件であった。予防接種に関しては、「接種費用を補助して欲しい」「ワクチンの安定供給」などの要望のほか、「かかりつけ医が地域外なので予防接種が受けられない」という未熟児のケースがあった。保育所群には、「予防接種を保育所でやって欲しい」という意見が目立った。病後の登園再開に関連して「登園許可書を持って行ったにもかかわらず、保育所が受け取らない」という

問題点ほか、「診断書を無料にして欲しい」との要望があった。

小児医療については、「休日・夜間の充実」が望まれている。少子化対策として「第2子の分娩費補助」との提案があった。

2. 健康診査に関する記述

公的な健康診査に関する記述は40件であった。まず実施の日時に関してであるが「土日にも実施して欲しい」「午前だけでなく、午後も」「午後は昼寝の時間と重なる」「回数が少ない」など、日程と時間帯の拡充が求められた。健診当日については「待ち時間が長い」、「第2子の託児希望」など実施上の配慮についての意見があった。内容については、スタッフへの評価とも関連が強いが「内容が薄い」「流れ作業的」との意見があり、事後については「不必要と思われる検査をされた」などの不信感をいだくケースがあった。このような問題点からか保育所群では、「保育士やかかりつけ医でみてもらえばよい」「公的健診は免除して欲しい」との意見もみられた。

3. サービスのあり方に関する記述

サービスについては54件の記述があった。中でも「活動の内容が分からない、知らない」「情報提供が不足している」「提供方法を工夫して欲しい」など、まずサービスの内容が周知されていないという問題があることが分かった。そして要望は「分かりやすく、利用しやすくして欲しい」という意見に集約される。

一方情報を多方面から得た保護者にとっては「地域によってサービスが異なる」ことへの不満や不安が述べられた。

サービスの内容については、「新生児訪問の保健師が3時間もいた」など不適切な対応の指摘や「自主性を尊重して」というサービスやアドバイスがおしつけになっていると思われる記述があった。

相談機関の充実への要望は「いつでも利用できる」「保育所に併設して欲しい」など、気軽に何時でも、あるいは緊急時に即対応できる体制が望まれていると言えよう。

4. 育児支援について

設問としては保健活動に関する記述を要求したのであるが、一般的な育児支援も多く含まれ53件となった。まず全般的な意見として「育児支援が足りない」「社会で育児を」など行政責任を追求した意見がみられる。その具体的な内容は、多項目に渡っている。保育関連では、保育所群のみの記述として「病児保育の充実」の要望、育児グループ群では「保育所・幼稚園が足りない」「一時保育が足りず、利用できない」などがあげられる。一時保育につい

ては、「親が病気で通院の時に利用する場合は無料にして欲しい。リフレッシュ目的の人と区別して欲しい」という意見がある一方、「24 時間の育児に疲れています」「本当に辛くなった時預けたかったが」など特別な用事がなくても、育児疲れという意味で緊急とも言えるケースもある。育児グループ群における一時保育への需要と期待の大きさが分かる。

さらに、育児グループ群の意見で特徴的であるのは「集いの場が欲しい」があげられる。育児支援センターなどでイベントとして開催される親子の集いは、月に数回や年に数回など「回数が足りない」。そこで育児サークルを作り親が集まろうとするが「場所の確保が難しい」とのことである。地域別にみるとこの問題は B 地域に集中している。「以前住んでいた所は常設の子どもセンターがあり、毎日利用できた」との意見にみられるように、現状では地域によって差がみられる。また、保育所の園庭開放も保育室内は使えず、「歩けない子どもが利用しやすい室内の施設がほとんどない」との指摘があった。近所で、いつでも気軽に利用できることが望まれている。

その他、「時短・育休と賃金保障」「母子家庭・父子家庭への援助」は保育所群のみに見られた。

5. 個人情報の扱いについて

個人情報に関しては 5 件あり、保育所群のみであった。「家庭に関する情報交換は控えて」「連携の意義がわからず、安心して相談できない」などの不安感が示された。一方の「情報の共有は不可欠である」という意見は、各機関の連携の状況に関わり「横のつながりがなく何度も同じ説明をしてそれぞれに理解してもらっている」という経験から、各機関における情報の共有の必要性を訴えている。

6. 連携について

連携については 7 件あり、保育所群のみにみられた。保育所と小児科医や、保育所と地域間で「連携がない」「連携必要」との意見が主である。「保健センターが保育所を育てて欲しい。一定のレベルに達しないと連携は難しい」という専門的ともとれる指摘もあった。

7. 保健サービスの担当者について

健診等におけるスタッフの対応に関する不満は 26 件あげられた。医師については「いばっている」「高齢医師、高飛車に昔の方法でミルクの与え方を指導」「既往症を把握していない」「保育所に入所していることに気づいていない」などがあがった。

保健師については「ありきたりの答え」「一方的」「がっかりした」「傷ついた」「よけい不安になった」などの意見があった。職種が特定されないが専門家スタッフの対応については、不適切であると

の記述が目立ち「もう少し安心して話せる専門的な人をお願いしたい」との要望が出されている。「歯科の担当者に大変不快な言葉をかけられた」との経験から「関係者の適性であるとか、教育をしてから参加して」という指摘からも、専門家としての質を問われている。もちろん、肯定的な意見も一部にはみられ「すごく安心した」「救われた」との記述もあった。「健診の時は忙しいと思うが、専門家と話せるいい機会なのでよきアドバイスをお願いしたい」という記述は、健診の意義を改めて確認できるものである。この項目は B 地域に記述がないことが特徴である。

8. 地域保健全般について

ここには、地域保健という言葉が使われていて、他の項目に分類されない意見 3 件を集めた。いずれも保育所群であるが、「身近なものになるようなイベントをもっとして欲しい」「地域保健と保育所保健は全く別のもの、地域保健には不満があるが保育所は安心」「保健機関と保育園が連携しなくてもよい。赤ちゃんから老人までトータルな健康サポートを公的機関で作って欲しい」いずれも、地域保健活動がどうあるべきかに関わる意見である。

9. 保育所の保健活動について

この項目は保育所群のみに尋ね 26 件の記述があった。保育所の保健活動を肯定的に捉えた「保育所で十分なので地域保健は不用である」「働く親にとって保育所の存在は重要であり、期待している」など、現状に比較的満足している意見から、「保育園児の健康管理は保育所でまとめて」との要望もあった。問題点としては「保育士の保健の知識が不足している」「園医とのコミュニケーションとりたい」「地域保健に比べて、保育所保健のレベルは保育所によって異なる」「保健活動を保育所にまとめても内容が充実するか疑問」などがあがった。また、地域への保健サービスという視点で考えた時「園児への負担にならないか、人員配置を考えて欲しい」という意見もあった。

IV 考察

母子保健サービスの受益者である乳幼児を持つ親の意見を内容別、保育所群・育児グループ群別に分類整理した。その結果、利用者側から見た地域保健サービスの現状を垣間みることができた。

第一に、「どんなサービスがあるか分かりにくい、利用しにくい」という問題点をあげることができる。これは、提供側に、個々の利用者にサービスを届けるという姿勢が欠けていることをあらわしていると言えるだろう。まず「分かりにくい」という点については、情報の提供の方法を工夫する必要がある。

子育てに関する情報は、一カ所ですべて分かるようにして欲しいという要望は、具体的には、地域の子育てセンターとしての保育所などが期待されている。

情報が個々の利用者に届けられたとしても「利用しにくい」という例は、健診に関する意見の中に見られる。利用者で、特に仕事をもって働いている親が多い保育所群では、日時を一方的に決められるのではなく、土日を含む日程を希望し、時間帯も幅を持たせ、都合のつく日時を選べることを希望している。一方、多くの公的な保健サービスのあり方は、限られた日時に多くの利用者を集め、効率よく行ってきたと言えるだろう。この提供側と利用側の意識のギャップは、大きいと言わざるを得ない。日程の設定の問題だけでなく、第一子対象の健診や親子の集いに、第二子、第三子を連れて行く場合や、健診の時間帯が子どもの昼寝の時間にあたるなど、家庭状況や子どもの生活リズムと提供側の設定条件に不一致が認められ、親の負担感を招いている。

第二に、「サービスの質」について、健診のあり方から検討したい。利用者からみた健診実施上の問題点の指摘（不満）は、スタッフの不適切な対応と時間を十分にかけてもらえないことが主な原因であった。健康診査をめったにない貴重な機会ととらえ、専門家にゆっくり診てもらい、相談したり悩みを聴いてもらったりしたいと考えている保護者がいた。しかし、実際は時間も少なく、育児支援者としてのスタッフの技量も一定レベルに達していないと感じていた。一方、保育所で定期的に健診を受けたり、かかりつけ医に日頃から健康管理をみてもらったりしている場合は、集団健診は同じことの繰り返しと感じ、特別の意義を見いだせないでいる。あるいは、日頃受けている医療・保健より更に高いレベルのサービスを期待してきた結果、失望している。つまり、保育士やかかりつけ医のサポートがある後者にとっても、そのようなサポートが不足している前者にとっても、集団健診の場合は満足行くサービスが提供されていないのが、現状といえる。換言すると、健診サービスの質は、個別のニーズへの対応という面で不十分である。

集団健診で期待されるもう一つの意義は、個別の健診では得がたい多くの同年齢の子どもやその親と触れ合う機会にあらう。しかし、健診と同日にグループ指導を行うことは、スタッフにも利用者にも負担が大きすぎる。あくまできっかけの場と捉えるべきで、別の機会を設けて「遊びの教室」を開いたり²⁾、母親のグループ作りを支援する機会を設けたりという工夫をする保健所やセンターもある³⁾。保健機関における育児支援をどのように充実させて行くのか、スタッフの育児支援者としての質の向上とともに、集団健診のあり方をとらえ直す必要性が分かる。

第三点として、さらに広く育児支援について検

討したい。保健面からみた育児支援は、母子の健康支援と捉えることができるが、心身の両面からのサポートが必要である。子ども・子育て応援プラン⁴⁾にも「全国どこでも歩いていける場所で気兼ねなく親子で集まって相談や交流ができる」「全国どこでも保育サービスが利用できる」などと記されている通り、その主軸は、集いの場、一時保育、育児相談などの各事業であることが保護者の記述からも知ることができた。いずれも有効な事業であるとの評価にも関わらず、その供給量が決定的に不足しているようだ。地域によって違いがあるが、集いの場の要望は多く、一時保育は、必要とする人が利用できない状態があり、育児疲れや親の病気など緊急性のある場合への対応が求められる。相談機関については、身近で何時でも、がキーワードである。これも緊急性がある場合を想定し体制の充実が望まれる。

V 結 語

保健サービスのあり方に関して、提供側と利用側のギャップは大きい。サービスのメニューが整っていても、利用者が利用できるように整えなければ、個人にとってそのサービスが存在しないのと同じである。24 時間年中無休で子どもの健康管理をあずかる親をどのようにサポートすべきか、現状の保健サービスにおいては検討の余地が多々ある。さらに、育児支援として保健サービスのあり方を考えれば、その内容・実施方法およびスタッフの支援者としての資質向上を検討すべき時期に直面していると言えるよう。

文 献

- 1) 高野 陽・齋藤幸子・他、保育所と地域保健の連携における子育て支援のあり方に関する研究 (II) 保育所と地域の保健活動に関する親の意識調査、日本子ども家庭総合研究所紀要第 41 集（本書）、2005
- 2) 高野 陽、保育所と地域保健との連携に関する研究、厚生科学研究（子ども家庭総合研究）「保育所における保健・衛生面に関する調査研究」平成 13 年度報告書、2002、420-425.
- 3) 上野美明、保健所における“Y.M.会（ヤンママの会）”活動の支援、平成 15 年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究公開シンポジウム「こどもが健やかに育つために～手をつなぐ地域と家庭～」抄録集、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会、2004、65-66.
- 4) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室、少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画について（子ども・子育て応援プラン）の決定について、2004.12.24.

表1 保健活動に関する保護者の意見

注) 表頭のA~Dは地域を、保は保育所の保護者、Gは育児グループの保護者を表す

大分類	小分類	件数	地域・回答者群別					
			A		B		C	D
			保	G	保	G	保	保
1 医療 13	1 インフルエンザ予防接種費の補助・ワクチンの供給確保	3	2	1				
	2 地域の違いで、かかりつけ医で予防接種が受けられない	1	1					
	3 予防接種を保育所でやって欲しい	4	1		1		2	
	4 登園許可手続きの問題（診断書など）	2	1					1
	5 休日・夜間の小児医療を充実して	2	1			1		
	6 分娩費の補助	1		1				
2 健診 40	7 健診の待ち時間が長い	6	3	2			1	
	8 健診は土日にして欲しい	9	5		1		2	1
	9 健診の時間帯を午後までなど広げて欲しい	7	6		1			
	10 健診の回数が少ない	2	1			1		
	11 健診時に第2子の託児希望	1		1				
	12 歯科検診を年2回に	1			1			
	13 健診内容レベルが低い、無駄。流れ作業	10	2	4			2	2
	14 精密検査に不信感	1		1				
	15 保育園児は公的健診免除して欲しい	1			1			
	16 保育士や、かかりつけ医に相談している	2	1					1
3 サービスのあり方 54	17 わかりやすく、利用しやすくして欲しい	10	4	2	2			2
	18 活動の内容が分からない、知らない	17	4	3	4		1	5
	19 情報提供が不足・提供方法の改善	13	2	2		1	2	6
	20 地域によってサービスが異なる不安・不満	3		1		1	1	
	21 利用者の自主性を尊重して欲しい	1						1
	22 不適切な新生児訪問指導	2		2				
	23 何時でも使える相談機関が必要	6	3		1		1	1
	24 保育所に相談機関を併設してほしい	2						2
4 育児支援 53	25 病児保育の充実	10	4		2		1	3
	26 保育所・幼稚園足りない	3		1		2		
	27 一時保育が足りず、利用できない	3		2		1		
	28 社会で子育てを、行政の責任	5	1		2		2	
	29 育児支援足りない、もっと拡充を	8	1	3	3	1		
	30 心理面のサポートをして欲しい	2			1			1
	31 小学生の保健活動をもっと	2			1		1	
	32 子育て困難に早期介入を	1			1			
	33 時短・育休・賃金保障	2			1		1	
	34 母子家庭・父子家庭への援助	2						2
	35 民間の目を持って	1						1
	36 園庭開放のみならず保育の見学希望	1				1		
	37 集いの場が足りない（時間制限がある、体育館開放して欲しい）	13	1	1	1	10		

大分類	小分類	件数	地域・回答者群別					
			A		B		C	D
			保	G	保	G	保	保
5 個人情報 の扱い	38	家庭に関する情報交換は控えて欲しい	2	1				1
	39	連携の意義がわからず、はっきりしないと安心して相談できない	1		1			
	40	情報交換は不可欠である	2					2
6 連携	41	地域の小児科医との連携必要	2		1		1	
	42	保育所のレベルを上げないと連携難しい	2	1				1
	43	保育所と地域の連携していない	3	1				2
7 人材	25	44 健診などのスタッフの対応への不満	25	6	5		4	10
8 地域保健	45	地域保健がもっと身近になるイベントを	1		1			
	46	連携でなく公的サービスとして一本化すべき	1	1				
	47	地域保健と保育所保健は別のものであると思っている	1	1				
9 保育所の保健活動	48	保育園児の健康管理は保育所でまとめて	8	5	1		2	
	49	保育所で十分なので地域保健は不用である	7	2	1			4
	50	保育士の保健知識が不足している	1		1			
	51	園医とのコミュニケーションとりたい	1		1			
	52	保育所での地域へのサービスが園児へ負担にならないか、人員配置を	1		1			
	53	働く親に保育所は大切、期待している	5	1				4
	54	保健活動を保育所でまとめても内容が充実するか疑問が残る	1	1				
	55	地域保健一定のレベルに対して、保育保健は保育所によって異なる。統一して欲しい	2	2				
その他（感想・お礼）		2	1		1			
合計		228	67	32	33	19	24	53